

対象学科		映画プロデュース科	科目名	撮影		
担当教員		長谷川新		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化				
学習目標 (到達目標)		撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	撮影基礎			撮影機材について		
3・4	撮影基礎の復習Ⅱ			撮影機材について		
5・6	撮影実習・技法Ⅰ			特殊機材を使用しての実習		
7・8	撮影実習・技法Ⅱ			特殊機材を使用しての実習		
9・10	撮影実習・技法Ⅲ			特殊機材を使用しての実習		
11・12	撮影実習・技法Ⅳ			カメラワーク基礎		
13・14	撮影実習・技法Ⅴ			カメラワーク基礎		
15・16	撮影実習・技法Ⅵ			カメラワーク基礎		
17・18	撮影実習Ⅰ			室内撮影		
19・20	撮影実習Ⅱ			室外撮影		
21・22	撮影実習Ⅲ			既存の映像の考察及び再現Ⅲ		
23・24	撮影実習Ⅳ			既存の映像の考察及び再現Ⅳ		
25・26	映像制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ		
27・28	映像制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ		
29・30	映像制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ		
31・32	映像制作実習Ⅳ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ		
33・34	映像制作実習Ⅴ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅴ		
35・36	映像制作実習Ⅵ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅵ		
37・38	映像制作実習Ⅶ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅶ		
39・40	講評			講評・テスト		
41・42	講評			講評・テスト		
43・44	講評			講評・テスト		
45・46	講評			講評・テスト		
47・48	講評			講評・テスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		新潟で20年以上カメラマンとして活躍				

対象学科		映画プロデュース科	科目名	撮影		
担当教員		長谷川新		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化				
学習目標 (到達目標)		撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	撮影基礎の復習Ⅰ			撮影機材の原理・使用方法Ⅰ		
3・4	撮影基礎の復習Ⅱ			撮影機材の原理・使用方法Ⅱ		
5・6	撮影実習・技法Ⅰ			特殊機材を使用しての実習Ⅰ		
7・8	撮影実習・技法Ⅱ			特殊機材を使用しての実習Ⅱ		
9・10	撮影実習・技法Ⅲ			特殊機材を使用しての実習Ⅲ		
11・12	撮影実習・技法Ⅳ			特殊機材を使用しての実習Ⅳ		
13・14	撮影実習・技法Ⅴ			特殊機材を使用しての実習Ⅴ		
15・16	撮影実習・技法Ⅵ			特殊機材を使用しての実習Ⅵ		
17・18	撮影実習Ⅰ			既存の映像の考察及び再現Ⅰ		
19・20	撮影実習Ⅱ			既存の映像の考察及び再現Ⅱ		
21・22	撮影実習Ⅲ			既存の映像の考察及び再現Ⅲ		
23・24	撮影実習Ⅳ			既存の映像の考察及び再現Ⅳ		
25・26	映像制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ		
27・28	映像制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ		
29・30	映像制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ		
31・32	映像制作実習Ⅳ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ		
33・34	映像制作実習Ⅴ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅴ		
35・36	映像制作実習Ⅵ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅵ		
37・38	映像制作実習Ⅶ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅶ		
39・40	講評			講評・テスト		
41・42	講評			講評・テスト		
43・44	講評			講評・テスト		
45・46	講評			講評・テスト		
47・48	講評			講評・テスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		新潟で20年以上カメラマンとして活躍				

対象学科		映画プロデュース科	科目名		撮影	
担当教員		長谷川新		実務授業の有無		○
対象コース			対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化				
学習目標 (到達目標)		撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	撮影基礎の復習Ⅰ			撮影機材の原理・使用方法Ⅰ		
3・4	撮影基礎の復習Ⅱ			撮影機材の原理・使用方法Ⅱ		
5・6	撮影実習・技法Ⅰ			特殊機材を使用しての実習Ⅰ		
7・8	撮影実習・技法Ⅱ			特殊機材を使用しての実習Ⅱ		
9・10	撮影実習・技法Ⅲ			特殊機材を使用しての実習Ⅲ		
11・12	撮影実習・技法Ⅳ			特殊機材を使用しての実習Ⅳ		
13・14	撮影実習・技法Ⅴ			特殊機材を使用しての実習Ⅴ		
15・16	撮影実習・技法Ⅵ			特殊機材を使用しての実習Ⅵ		
17・18	撮影実習Ⅰ			既存の映像の考察及び再現Ⅰ		
19・20	撮影実習Ⅱ			既存の映像の考察及び再現Ⅱ		
21・22	撮影実習Ⅲ			既存の映像の考察及び再現Ⅲ		
23・24	撮影実習Ⅳ			既存の映像の考察及び再現Ⅳ		
25・26	映像制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ		
27・28	映像制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ		
29・30	映像制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ		
31・32	映像制作実習Ⅳ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ		
33・34	映像制作実習Ⅴ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅴ		
35・36	映像制作実習Ⅵ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅵ		
37・38	映像制作実習Ⅶ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅶ		
39・40	講評			講評・テスト		
41・42	講評			講評・テスト		
43・44	講評			講評・テスト		
45・46	講評			講評・テスト		
47・48	講評			講評・テスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		新潟で20年以上カメラマンとして活躍				

対象学科		映画プロデュース科	科目名	撮影		
担当教員		長谷川新		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	4	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化				
学習目標 (到達目標)		撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	撮影基礎の復習Ⅰ			撮影機材の原理・使用方法Ⅰ		
3・4	撮影基礎の復習Ⅱ			撮影機材の原理・使用方法Ⅱ		
5・6	撮影実習・技法Ⅰ			特殊機材を使用しての実習Ⅰ		
7・8	撮影実習・技法Ⅱ			特殊機材を使用しての実習Ⅱ		
9・10	撮影実習・技法Ⅲ			特殊機材を使用しての実習Ⅲ		
11・12	撮影実習・技法Ⅳ			特殊機材を使用しての実習Ⅳ		
13・14	撮影実習・技法Ⅴ			特殊機材を使用しての実習Ⅴ		
15・16	撮影実習・技法Ⅵ			特殊機材を使用しての実習Ⅵ		
17・18	撮影実習Ⅰ			既存の映像の考察及び再現Ⅰ		
19・20	撮影実習Ⅱ			既存の映像の考察及び再現Ⅱ		
21・22	撮影実習Ⅲ			既存の映像の考察及び再現Ⅲ		
23・24	撮影実習Ⅳ			既存の映像の考察及び再現Ⅳ		
25・26	映像制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ		
27・28	映像制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ		
29・30	映像制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ		
31・32	映像制作実習Ⅳ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ		
33・34	映像制作実習Ⅴ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅴ		
35・36	映像制作実習Ⅵ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅵ		
37・38	映像制作実習Ⅶ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅶ		
39・40	講評			講評・テスト		
41・42	講評			講評・テスト		
43・44	講評			講評・テスト		
45・46	講評			講評・テスト		
47・48	講評			講評・テスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		新潟で20年以上カメラマンとして活躍				

対象学科	映画プロデュース科	科目名	シナリオプランニング		
担当教員	渡辺 一久		実務授業の有無	○	
対象コース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. シナリオの基本 2. ストーリーの作り方 3. 原作からの脚本起こし				
学習目標 (到達目標)	シナリオが理解出来る				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	シナリオとは何か？シナリオ・台本・脚本の違い		プリント配布		
2	シナリオルール（表紙・ト書き、台詞位置、20×20マス使用など）		プリント配布		
3	ストーリーの作り方（ジャンル別）		プリント配布		
4	ストーリーの作り方（登場人物について）		プリント配布		
5	ストーリーの作り方（設定場所・時代について）		プリント配布		
6	ストーリーの作り方（構成 起承転結）		プリント配布		
7	ストーリーの作り方（シーンごとのメリハリ）		プリント配布		
8	四コマ漫画の作成（課題テスト）		これまでの学習が生かされているかをチェック		
9	ラジオドラマ1分間シナリオ作成		期日までに提出		
10	授業中に作成、随時、指導・アドバイスあり				
11	ラジオドラマ5分間シナリオ作成		期日までに提出		
12	授業中に作成、随時、指導・アドバイスあり				
13	ラジオドラマ10分間シナリオ作成		期日までに提出		
14	授業中に作成、随時、指導・アドバイスあり				
15	10分ラジオドラマを収録し、完成度を評価する		評価		
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
ラジオドラマ完成度50%、ラジオドラマシナリオ40%、学習意欲10%			学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。諦めず責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		映像業界現場経験27年、番組ディレクター			

②

対象学科		映画プロデュース科	科目名	シナリオプランニング		
担当教員		渡辺 一久		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. シナリオ作り 2. ト書き・台詞の書き方 3. シナリオ作り				
学習目標 (到達目標)		シナリオを元に映像制作が出来る				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	テレビドラマ用シナリオについて			プリント配布		
2	アニメーション用シナリオについて			プリント配布		
3	テレビ番組台本について			プリント配布		
4	ドラマシナリオから映像を作る基本			プリント配布		
5	ト書きから画コンテ作成			プリント配布		
6	映像ドラマ15分間シナリオ作成 授業中に作成、随時、指導・アドバイスあり			期日までに提出		
7						
8						
9						
10	15分シナリオで映像制作			期日までに提出		
11						
12						
13						
14						
15	完成試写会			評価		
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
映像ドラマ完成度50%、映像ドラマシナリオ40%、学習意欲10%				学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。諦めず責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		映像業界現場経験27年、番組ディレクター				

②

対象学科		映画プロデュース科	科目名	シナリオプランニング		
担当教員		渡辺 一久		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. シナリオ作り 2. 映像になるシナリオ作り				
学習目標 (到達目標)		現場で通用するシナリオ作り。コンペ出展用作品のためのシナリオ作り				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	3年生・4年生合同 映画シナリオを作成・および映画制作			随時、指導およびチェックあり		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
映像完成50%、コンペ出展50%				学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。諦めず責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		映像業界現場経験27年、番組ディレクター				

②

対象学科		映画プロデュース科	科目名	シナリオプランニング		
担当教員		渡辺 一久		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	4	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. シナリオ作り 2. 映像になるシナリオ作り				
学習目標 (到達目標)		現場で通用するシナリオ作り。コンペ出展用作品のためのシナリオ作り				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	3年生・4年生合同 映画シナリオを作成・および映画制作			随時、指導およびチェックあり		
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
映像完成50%、コンペ出展50% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。諦めず責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		映像業界現場経験27年、番組ディレクター				

対象学科		映画プロデュース科		科目名		照明	
担当教員		五味澤 和宏・小峯 睦男		実務授業の有無		○	
対象コース				対象学年		1	
必修・選択		必修		単位数		一	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る					
学習目標 (到達目標)		監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図解・実践 新版 映像ライティング					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1・2	照明基礎Ⅰ				照明機材の種類、名前を学習する		
3・4	照明基礎Ⅱ				照明機材の種類、名前を学習する		
5・6	照明基礎Ⅲ				電圧の計算方法を学ぶ		
7・8	照明基礎Ⅳ				基本的な照明設計の考え方を学ぶ		
9・10	照明基礎実践Ⅰ				基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
11・12	照明基礎実践Ⅱ				基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
13・14	照明基礎実践Ⅲ				基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
15・16	映像照明基礎実践Ⅰ				朝の照明を作成してみる		
17・18	映像照明基礎実践Ⅱ				射し込みを表現してみる		
19・20	照明基礎Ⅴ				様々な場所の光を数値化してみる		
21・22	映像照明基礎実践Ⅲ				夕焼けを作成してみる		
23・24	映像照明基礎実践Ⅳ				夜を表現してみる		
25・26	映像照明基礎実践Ⅴ				感情表現を表してみる		
27・28	映像照明基礎実践Ⅵ				感情表現を表してみる		
29・30	映像照明基礎実践Ⅶ				人物のライティングをしてみる		
31・32	照明実践Ⅰ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
33・34	照明実践Ⅱ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
35・36	照明実践Ⅲ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
37・38	照明実践Ⅳ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
39・40	照明実践Ⅴ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
41・42	講評				講評		
43・44	講評				講評		
45・46	講評				講評		
47・48	講評				講評		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%					積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。 授業の進め方は各学年で相違はないが、レベルと内容は異なる。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴		「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師					

対象学科		映画プロデュース科		科目名		照明	
担当教員		五味澤 和宏・小峯 睦男		実務授業の有無		○	
対象コース				対象学年		2	
必修・選択		必修		単位数		一	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る					
学習目標 (到達目標)		監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図解・実践 新版 映像ライティング					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1・2	照明基礎Ⅰ				照明機材の種類、名前を学習する		
3・4	照明基礎Ⅱ				照明機材の種類、名前を学習する		
5・6	照明基礎Ⅲ				電圧の計算方法を学ぶ		
7・8	照明基礎Ⅳ				基本的な照明設計の考え方を学ぶ		
9・10	照明基礎実践Ⅰ				基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
11・12	照明基礎実践Ⅱ				基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
13・14	照明基礎実践Ⅲ				基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる		
15・16	映像照明基礎実践Ⅰ				朝の照明を作成してみる		
17・18	映像照明基礎実践Ⅱ				射し込みを表現してみる		
19・20	照明基礎Ⅴ				様々な場所の光を数値化してみる		
21・22	映像照明基礎実践Ⅲ				夕焼けを作成してみる		
23・24	映像照明基礎実践Ⅳ				夜を表現してみる		
25・26	映像照明基礎実践Ⅴ				感情表現を表してみる		
27・28	映像照明基礎実践Ⅵ				感情表現を表してみる		
29・30	映像照明基礎実践Ⅶ				人物のライティングをしてみる		
31・32	照明実践Ⅰ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
33・34	照明実践Ⅱ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
35・36	照明実践Ⅲ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
37・38	照明実践Ⅳ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
39・40	照明実践Ⅴ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
41・42	講評				講評		
43・44	講評				講評		
45・46	講評				講評		
47・48	講評				講評		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%					積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。 授業の進め方は各学年で相違はないが、レベルと内容は異なる。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴		「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師					

対象学科		映画プロデュース科		科目名		照明	
担当教員		五味澤 和宏・小峯 睦男		実務授業の有無		○	
対象コース				対象学年		3	
必修・選択		必修		単位数		一	
授業概要、目的、授業の進め方		1. 演出に応じた照明設計の考え方を学ぶ 2. 様々なシチュエーションの照明を作る 3. 短編～中編映像を制作する					
学習目標 (到達目標)		監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1・2	照明演出基礎Ⅰ				演出に基づいた照明の考え方Ⅰ		
3・4	照明演出基礎Ⅱ				演出に基づいた照明の考え方Ⅱ		
5・6	照明演出基礎Ⅲ				撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ		
7・8	照明演出基礎実践Ⅰ				撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ		
9・10	照明演出基礎実践Ⅱ				撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ		
11・12	照明演出基礎実践Ⅲ				デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する		
13・14	照明演出基礎実践Ⅳ				デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する		
15・16	映像照明基礎実践Ⅰ				監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる		
17・18	映像照明基礎実践Ⅱ				監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる		
19・20	映像照明基礎実践Ⅲ				監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる		
21・22	照明基礎Ⅴ				様々な場所の光を数値化してみる		
23・24	照明基礎Ⅵ				様々な場所の光を数値化してみる		
25・26	映像照明基礎実践Ⅳ				役者の心理を考え、照明で表現してみる		
27・28	映像照明基礎実践Ⅴ				役者の心理を考え、照明で表現してみる		
29・30	映像照明基礎実践Ⅵ				役者の心理を考え、照明で表現してみる		
31・32	照明実践Ⅰ				シナリオを基にした短編映像を制作する		
33・34	照明実践Ⅱ				シナリオを基にした短編映像を制作する		
35・36	照明実践Ⅲ				シナリオを基にした短編映像を制作する		
37・38	照明実践Ⅳ				シナリオを基にした短編映像を制作する		
39・40	照明実践Ⅴ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
41・42	講評				講評		
43・44	講評				講評		
45・46	講評				講評		
47・48	講評				講評		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%					積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。 授業の進め方は各学年で相違はないが、レベルと内容は異なる。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴		「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師					

対象学科		映画プロデュース科		科目名		照明	
担当教員		五味澤 和宏・小峯 睦男		実務授業の有無		○	
対象コース				対象学年		4	
必修・選択		必修		単位数		一	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 演出に応じた照明設計の考え方を学ぶ 2. 様々なシチュエーションの照明を作る 3. 短編～中編映像を制作する					
学習目標 (到達目標)		監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1・2	照明演出基礎Ⅰ				演出に基づいた照明の考え方Ⅰ		
3・4	照明演出基礎Ⅱ				演出に基づいた照明の考え方Ⅱ		
5・6	照明演出基礎Ⅲ				撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ		
7・8	照明演出基礎実践Ⅰ				撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ		
9・10	照明演出基礎実践Ⅱ				撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ		
11・12	照明演出基礎実践Ⅲ				デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する		
13・14	照明演出基礎実践Ⅳ				デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する		
15・16	映像照明基礎実践Ⅰ				役者の心理を考え、照明で表現してみる		
17・18	映像照明基礎実践Ⅱ				役者の心理を考え、照明で表現してみる		
19・20	映像照明基礎実践Ⅲ				監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる		
21・22	照明基礎Ⅴ				様々な場所の光を数値化してみる		
23・24	照明基礎Ⅵ				様々な場所の光を数値化してみる		
25・26	映像照明基礎実践Ⅳ				役者の心理を考え、照明で表現してみる		
27・28	映像照明基礎実践Ⅴ				役者の心理を考え、照明で表現してみる		
29・30	映像照明基礎実践Ⅵ				役者の心理を考え、照明で表現してみる		
31・32	照明実践Ⅰ				シナリオを基にした短編映像を制作する		
33・34	照明実践Ⅱ				シナリオを基にした短編映像を制作する		
35・36	照明実践Ⅲ				シナリオを基にした短編映像を制作する		
37・38	照明実践Ⅳ				シナリオを基にした短編映像を制作する		
39・40	照明実践Ⅴ				学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する		
41・42	講評				講評		
43・44	講評				講評		
45・46	講評				講評		
47・48	講評				講評		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%					積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴		「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	映画プロデュース科	科目名	Protocols		
担当教員	長谷川 辰也		実務授業の有無	○	
対象コース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 音響機材の使用法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)	音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎実習Ⅰ		映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ		
2	音響基礎実習Ⅱ		音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ		
3	音響基礎実習Ⅲ		録音機材の準備方法、撤収方法		
4	音響基礎実習Ⅳ		ブームの使用法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ		
5	音響基礎実習Ⅴ		スタジオ録音実習		
6	音響基礎実習Ⅵ		アフレコ録音実習		
7	音響基礎実習Ⅶ		アフレコ録音実習		
8	音響基礎実習Ⅷ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
9	音響基礎実習Ⅸ		効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）		
10	音響基礎実習Ⅹ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
11	音響基礎実習Ⅺ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
12	音響基礎実習Ⅻ		整音実習（アフレコ素材の整音）		
13	音響仕上げ実習Ⅰ		ミックスダウンを行ってみる。		
14	音響仕上げ実習Ⅱ		ミックスダウンを行ってみる。		
15	音響効果研究Ⅰ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
16	音響効果研究Ⅱ		アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
収録クオリティー80%、出席率20%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		イベント制作会社 サウンドエイト 音響技師			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	映画プロデュース科	科目名	Protocols		
担当教員	長谷川 辰也		実務授業の有無	○	
対象コース		対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)	録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編映像を完成させる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	音響基礎知識Ⅰ		ENG、マルチトラック録音、ワイヤレスマイクの取り扱い。電波法を理解する。		
2	音響基礎知識Ⅱ		マルチトラック録音実践		
3	音響基礎知識Ⅲ		ENG収録実践		
4	効果音実習Ⅰ		アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
5	効果音実習Ⅱ		アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
6	効果音実習Ⅲ		アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。		
7	録音実習Ⅰ		シナリオから短編映像制作を行う		
8	録音実習Ⅱ		シナリオを基に録音機材の機材のセッティング方法、機材の選定、操作方法の確認を行う。		
9	録音実践Ⅰ		短編映像制作		
10	録音実践Ⅱ		編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う		
11	録音実践Ⅲ		編集と同時に音素材収集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う		
12	録音実践Ⅳ		整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
13	録音実践Ⅴ		整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
14	録音実践Ⅵ		整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
15	録音実践Ⅶ		整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う		
16	PA実習		音響機材を使用し、マイクや操作卓のセッティング方法などを学ぶ。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
収録クオリティー80%、出席率20%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		イベント制作会社 サウンドエイト 音響技師			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	映画プロデュース科	科目名	Protools		
担当教員	長谷川 辰也		実務授業の有無	○	
対象コース		対象学年	3・4	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)	録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編映像を完成させる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ナレーション収録		他学科のナレーション授業の収録		
2					
3					
4	ヴォーカル収録		他学科のナレーション授業の収録		
5					
6					
7	楽器収録		他学科のナレーション授業の収録		
8					
9					
10	アニメアフレコ①収録		他学科のナレーション授業の収録		
11					
12					
13	アニメアフレコ②収録		他学科のナレーション授業の収録		
14					
15					
16	筆記テスト				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
収録クオリティー50%、筆記テスト40%、出席率10%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	イベント制作会社 サウンドエイト音響技師				

対象学科		映画プロデュース科	科目名	編集		
担当教員		榎本 昭紀		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. Macintoshの操作方法を知る 2. Final Cut Proの操作方法を学ぶ 3. Final Cut Proで映像制作を行う				
学習目標 (到達目標)		ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	Macintosh操作基礎			Macintoshの操作方法、アカウントを作成してみる		
3・4	ノンリニア編集基礎Ⅰ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）		
5・6	ノンリニア編集基礎Ⅱ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）		
7・8	ノンリニア編集基礎Ⅲ			Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）		
9・10	編集基礎Ⅰ			カット、シーンの考え方を学ぶ		
11・12	編集基礎Ⅱ			カット、シーンの繋ぎ方を学ぶ		
13・14	編集基礎Ⅲ			Final Cut Proを使用した音の整音方法を学ぶ		
15・16	編集基礎Ⅳ			モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる		
17・18	編集基礎Ⅴ			モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる		
19・20	編集実践Ⅰ			短編映像制作（撮影）		
21・22	編集実践Ⅱ			短編映像制作（撮影）		
23・24	編集実践Ⅲ			短編映像制作（編集）		
25・26	編集実践Ⅳ			短編映像制作（編集）		
27・28	編集実践Ⅴ			短編映像制作（編集）		
29・30	編集実践Ⅵ			短編映像制作（オールラッシュ）		
31・32	編集実践Ⅶ			仕上げ：編集データの書出し、カット・リスト作成、コンフォーム、グレーディング		
33・34	撮影授業で使用した素材としてCM・PVとして編集			10作品提出		
35・36						
37・38						
39・40						
41・42						
43・44						
45・46						
47・48						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
作品提出35%、映像完成度35%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、短編映像作品を完成させ提出すること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット				

対象学科		映画プロデュース科		科目名		編集					
担当教員		榎本 昭紀			実務授業の有無		○				
対象コース				対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		48時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. Final Cut Proの効率的な編集方法を学ぶ 2. ドローンを使用した空撮実習 3. 他の技術パートとの関連性を学ぶ									
学習目標 (到達目標)		ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1・2		編集基礎Ⅰ					ノンリニア編集の復習				
3・4		編集実践Ⅱ					学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。				
5・6		編集実践Ⅲ					学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。				
7・8		編集実践Ⅳ					学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。				
9・10		編集実践Ⅴ					編集から、書出しまで行い、納品出来るよう映像作品をデータ化する				
11・12		空撮実習					ドローンを使用した空撮実習				
13・14		編集実践（応用編）Ⅰ					エフェクトを使用したタイトル制作、動画加工を学ぶ				
15・16		編集実践（応用編）Ⅱ					エフェクトを使用したタイトル制作、動画加工を学ぶ				
17・18		編集実践（応用編）Ⅲ					エフェクトを使用したタイトル制作、動画加工を学ぶ				
19・20		編集実践（応用編）Ⅳ					修了制作で作成した映像作品の予告編を制作する。				
21・22		編集実践（応用編）Ⅴ					修了制作で作成した映像作品の予告編を制作する。				
23・24		編集実践（応用編）Ⅵ					修了制作で作成した映像作品の予告編を制作する。				
25・26		短編映像制作Ⅰ					短編映像制作を行う。				
27・28		短編映像制作Ⅱ					短編映像制作を行う。				
29・30		短編映像制作Ⅲ					短編映像制作を行う。				
31・32		短編映像制作Ⅳ					短編映像制作を行う。				
33・34		撮影授業で使用した素材としてドラマとしてを編集					10作品提出				
35・36											
37・38											
39・40											
41・42											
43・44											
45・46											
47・48											
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
作品提出35%、映像完成度35%、出席率30%							積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、再現映像と、短編映像作品を完成させ提出すること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。											
実務経験教員の経歴		農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット									

対象学科		映画プロデュース科	科目名	編集		
担当教員		榎本 昭紀		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. Final Cut Proの効率的な編集方法を学ぶ 2. ドローンを使用した空撮実習 3. 他の技術パートとの関連性を学ぶ				
学習目標 (到達目標)		ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	編集実践Ⅰ			複数の素材を利用したFinal Cut Proでの効率的な編集方法を学ぶ（操作）		
3・4	編集実践Ⅱ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。		
5・6	編集実践Ⅲ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。		
7・8	編集実践Ⅳ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。		
9・10	編集実践Ⅴ			仕上げ、オーサリング、書出し、コピー		
11・12	空撮実習			ドローンを使用した空撮実習		
13・14	編集実践（応用編）Ⅰ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）		
15・16	編集実践（応用編）Ⅱ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）		
17・18	編集実践（応用編）Ⅲ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）		
19・20	短編・中編映像制作Ⅰ			中編・長編映像制作を行う。		
21・22	短編・中編映像制作Ⅱ			中編・長編映像制作を行う。		
23・24	短編・中編映像制作Ⅲ			中編・長編映像制作を行う。		
25・26	短編・中編映像制作Ⅳ			中編・長編映像制作を行う。		
27・28	短編・中編映像制作Ⅴ			中編・長編映像制作を行う。		
29・30	短編・中編映像制作Ⅵ			中編・長編映像制作を行う。		
31・32	短編・中編映像制作Ⅶ			中編・長編映像制作を行う。		
33・34	撮影授業で使用した素材として映画としてを編集			2作品提出		
35・36						
37・38						
39・40						
41・42						
43・44						
45・46						
47・48						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
作品提出35%、映像完成度35%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、再現映像と、短編映像作品を完成させ提出すること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット				

対象学科		映画プロデュース科	科目名	編集		
担当教員		榎本 昭紀		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	4	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. Final Cut Proの効率的な編集方法を学ぶ 2. ドローンを使用した空撮実習 3. 他の技術パートとの関連性を学ぶ				
学習目標 (到達目標)		ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	編集実践Ⅰ			複数の素材を利用したFinal Cut Proでの効率的な編集方法を学ぶ（操作）		
3・4	編集実践Ⅱ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。		
5・6	編集実践Ⅲ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。		
7・8	編集実践Ⅳ			学生が撮影した映像素材を使用し、効率的な編集方法を実践してみる。		
9・10	編集実践Ⅴ			仕上げ、オーサリング、書出し、コピー		
11・12	空撮実習			ドローンを使用した空撮実習		
13・14	編集実践（応用編）Ⅰ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）		
15・16	編集実践（応用編）Ⅱ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）		
17・18	編集実践（応用編）Ⅲ			クロマキー、エフェクト等を使用し、高度な映像制作を行う（ドラマ、CM等の再現）		
19・20	短編・中編映像制作Ⅰ			中編・長編映像制作を行う。		
21・22	短編・中編映像制作Ⅱ			中編・長編映像制作を行う。		
23・24	短編・中編映像制作Ⅲ			中編・長編映像制作を行う。		
25・26	短編・中編映像制作Ⅳ			中編・長編映像制作を行う。		
27・28	短編・中編映像制作Ⅴ			中編・長編映像制作を行う。		
29・30	短編・中編映像制作Ⅵ			中編・長編映像制作を行う。		
31・32	短編・中編映像制作Ⅶ			中編・長編映像制作を行う。		
33・34	撮影授業で使用した素材として映画としてを編集			2作品提出		
35・36						
37・38						
39・40						
41・42						
43・44						
45・46						
47・48						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
作品提出35%、映像完成度35%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、再現映像と、短編映像作品を完成させ提出すること。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット				

対象学科		映画プロデュース科	科目名	配信		
担当教員		菅家 将次		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1．配信機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2．基本的な配信システムの考え方を学ぶ 3．イベント等の配信を行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身で配信のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	配信基礎Ⅰ			配信機材の種類、名前を学習する		
2	配信基礎Ⅱ			配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
3	配信基礎Ⅲ			配信設備の組み立てを行う		
4	配信基礎Ⅳ			WEB配信に必要な基礎的知識を学ぶ		
5	配信基礎Ⅴ			配信に必要なソフトウェアの知識を得る		
6	配信基礎Ⅵ			配信に必要なソフトウェアの知識を得る		
7	配信基礎Ⅶ			配信に必要なソフトウェアの知識を得る		
8	配信基礎実践Ⅰ			基本的な配信設計に基づいて、配信設備をセッティングして みる		
9	配信基礎実践Ⅰ			配信イベントを企画するⅠ		
10	配信基礎実践Ⅰ			配信イベントを企画するⅡ		
11	配信基礎実践Ⅰ			企画したイベントの配信を行う		
12	配信基礎Ⅱ			機材を複数用いた配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
13	配信基礎Ⅱ			機材を複数用いた配信機材の組み立てを行う		
14	配信基礎Ⅱ			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅠ		
15	配信基礎Ⅱ			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅡ		
16	配信基礎実践Ⅱ			配信設計に基づいて、配信設備をセッティングして みる		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				16回すべての授業に出席し、イベントの企画配信を行う事		
実務経験教員の経歴		新潟での様々なイベント、配信スタッフ				

対象学科		映画プロデュース科	科目名	配信		
担当教員		菅家 将次		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 配信機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な配信システムの考え方を学ぶ 3. イベント等の配信を行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身で配信のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	配信Ⅰ（応用）			配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
2	配信Ⅱ（応用）			配信設備の組み立てを行う		
3	配信Ⅲ（応用）			WEB配信に必要な基礎的知識を学ぶ		
4	配信Ⅳ（応用）			配信に必要なソフトウェアの知識を得る		
5	配信Ⅴ（応用）			配信に必要なソフトウェアの知識を得る		
6	配信実践Ⅰ			実践的な配信設計に基づいたセッティング		
7	配信実践Ⅱ			配信イベントを企画するⅠ		
8	配信実践Ⅲ			配信イベントを企画するⅡ		
9	配信実践Ⅳ			配信イベントを企画するⅡ		
10	配信実習Ⅰ（応用）			機材を複数用いた配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
11	配信実習Ⅱ（応用）			機材を複数用いた配信機材の組み立てを行う		
12	配信実習Ⅲ（応用）			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅠ		
13	配信実習Ⅳ（応用）			配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる		
14	配信実習Ⅴ（応用）			配信イベントを企画するⅢ		
15	配信実習Ⅵ（応用）			企画したイベントの配信を行う		
16	単位認定試験					
17						
18						
19						
20						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
単位認定試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				16回すべての授業に出席し、イベントの企画配信を行う事		
実務経験教員の経歴		新潟での様々なイベント、配信スタッフ				

対象学科		映画プロデュース科	科目名	配信		
担当教員		菅家 将次		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	3 ・ 4	開講時期	前期 ・ 後期
必修 ・ 選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1．配信機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2．基本的な配信システムの考え方を学ぶ 3．イベント等の配信を行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身で配信のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	配信動画の制作①			作品内容は自由、ただし尺は30分とする		
2						
3	①作品の配信					
4	配信動画の制作②			作品内容は自由、ただし尺は30分とする		
5						
6	②作品の配信					
7	配信動画の制作③			作品内容は自由、ただし尺は30分とする		
8						
9	③作品の配信					
10	音楽ライブ配信			生配信の実施		
11						
12	音楽ライブ配信			生配信の実施		
13						
14	演劇ライブ配信			生配信の実施		
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験40%、出席率30%、その他配信実績30%				3年生・4年生の合同授業 授業以外のライブ配信なども成績評価とします。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		新潟での様々なイベント、配信スタッフ				

対象学科		映画プロデュース科		科目名		CM制作					
担当教員		広川　一義			実務授業の有無		○				
対象コース				対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる									
学習目標 (到達目標)		多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	発想トレーニング					1つのキーワードからどれだけ連想出来るかをトレーニングする					
2	映像研究					CMの種類、トレンドを研究する					
3	企画					1つのテーマを決め、内容にそった企画内容を考えプレゼンテーションを行う					
4	企画Ⅱ					プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う					
5	企画Ⅲ					プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う					
6	企画Ⅳ					プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う					
7	絵コンテ制作実習Ⅰ					企画内容にそった絵コンテ制作（絵コンテの書き方基礎）					
8	絵コンテ制作実習Ⅱ					企画内容にそった絵コンテ制作Ⅱ					
9	絵コンテ制作実習Ⅲ					企画内容にそった絵コンテ制作Ⅲ					
10	制作実習Ⅰ					企画内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める					
11	制作実習Ⅱ					撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う					
12	制作実習Ⅲ					撮影スケジュールを決める					
13	撮影実習Ⅰ					企画にそった撮影を行う					
14	撮影実習Ⅱ					企画にそった撮影を行う					
15	編集実習Ⅰ					撮影した素材を編集し、仕上げを行う					
16	編集実習Ⅱ					撮影した素材を編集し、仕上げを行う					
17	編集実習Ⅲ					撮影した素材を編集し、仕上げを行う					
18	編集実習Ⅳ					撮影した素材を編集し、仕上げを行う					
19	編集実習Ⅴ					撮影した素材を編集し、仕上げを行う					
20	作品制作①　商品					対象商品のCM制作について企画書制作					
21	作品制作①　商品					画コンテ・台本作成					
22	作品制作①　商品					撮影・編集・MA					
23	作品制作②　企業					対象企業のCM制作について企画書制作					
24	作品制作②　企業					画コンテ・台本作成					
25	作品制作②　企業					撮影・編集・MA					
26	作品制作③　イメージCM					イメージCM制作について企画書制作					
27	作品制作③　イメージCM					画コンテ・台本作成					
28	作品制作③　イメージCM					撮影・編集・MA					
29	作品制作①　情報CM					情報CM制作について企画書制作					
30	作品制作②　情報CM					画コンテ・台本作成					
31	作品制作③　情報CM					撮影・編集・MA					
32	講評					講評					
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
企画内容35％、実技試験35％、出席率30％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いは無く、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。					
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる									

②

対象学科	映画プロデュース科	科目名	ビジネス著作権検定		
担当教員	神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象コース		対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。				
学習目標 (到達目標)	1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	著作権とは何か		イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的		
2	著作権で保護されるもの		著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19		
3	著作権は誰が持つ		著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29		
4	著作権の内容 1		著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科 書P31～P41		
5	著作権の内容 2		財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二 次的著作権 教科書P43～P59		
6	著作権は誰が持ついつまで保護される		著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69		
7	他人の著作物は勝手に使えない		著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77		
8	勝手に使える場合がある		権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演、演奏・引用 転載 教科書P83～P101		
9	著作物を伝達する者を保護する制度		著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放送事業者）・隣接権保 護期間 教科書P117～P129		
10	勝手に使うとどうなるか		著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145		
11	著作権に関する関連制度		知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155		
12	産業財産権とは		特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布		
13	ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは		問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説		
14	著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外		問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説		
15	著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺		問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説		
16	模擬試験（過去問題より重要部分を出題）		答え合わせおよび解説		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格 を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識と なるので、しっかりと理解に努めること。		
実務経験教員の経歴					

対象学科		映画プロデュース科	科目名	PC&Webリテラシー		
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象コース			対象学年	1・2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 情報リテラシーに関する知識 2. パソコンに関する基礎知識 3. アプリケーションに関する基礎知識				
学習目標 (到達目標)		P C, S N Sに関する基礎知識 ビジネスソフトを中心に基礎使用方法				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	情報リテラシー			情報を正しく選択し解釈する		
3・4	情報リテラシー			ネット使用の注意点		
5・6	Twitterについて			セルフプロモーション活用法		
7・8	Instagram			セルフプロモーション活用法		
9・10	Youtube			セルフプロモーション活用法		
11・12	ソフト（Word）			文章作成		
13・14	ソフト（Word）			文章作成		
15・16	ソフト（Excel）			表計算		
17・18	ソフト（Excel）			表計算		
19・20	ソフト（PowerPoint）			プレゼンテーション		
21・22	ソフト（PowerPoint）			プレゼンテーション		
23・24	フリーソフト紹介および使用方法①			画像・動画		
25・26	フリーソフト紹介および使用方法②			画像・動画		
27・28	フリーソフト紹介および使用方法③			画像・動画		
29・30	フリーソフト紹介および使用方法④			音楽・サウンド編集		
31・32	フリーソフト紹介および使用方法⑤			音楽・サウンド編集		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！		
実務経験教員の経歴						

対象学科		映画プロデュース科	科目名	PC&Webリテラシー	
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×
対象コース			対象学年	3・4	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数 32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		ソフト・アプリケーションを使用した様々な作成実習 1. 画像・動画関係 2. 音楽・音響関係 3. その他（CAD、イラスト・アニメーションなど）			
学習目標 （到達目標）		様々なソフト・アプリケーションを使用したコンテンツ作成が可能な人材育成			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	画像・イラストソフトについて①			illustrator・photoshop	
3・4	画像・イラストソフトについて②			illustrator・photoshop	
5・6	画像・イラストソフトについて③			illustrator・photoshop	
7・8	画像・イラストソフトについて④			illustrator・photoshop	
9・10	動画ソフトについて①			Final Cut Pro	
11・12	動画ソフトについて②			Final Cut Pro	
13・14	動画ソフトについて③			Final Cut Pro	
15・16	動画ソフトについて④			Final Cut Pro	
17・18	レコーディングソフトについて①			Protools	
19・20	レコーディングソフトについて②			Protools	
21・22	レコーディングソフトについて③			Protools	
23・24	レコーディングソフトについて④			Protools	
25・26	アニメーション制作			フリーソフト活用	
27・28	アニメーション制作			フリーソフト活用	
29・30	アニメーション制作			フリーソフト活用	
31・32	アニメーション制作			フリーソフト活用	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				自身が知っている、使用出来るフリーソフトは授業内で教えて 合って知識・技術を共有しましょう！	
実務経験教員の経歴					

対象学科		映画プロデュース科	科目名	ファシリテーション		
担当教員		矢頭 勲		実務授業の有無	×	
対象コース			対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。				
学習目標 （到達目標）		社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションとは？			P2 コミュニケーションの必要性を考える		
2	聞く力			P6～P9 目的に即して聞く		
3	聞く力			P10～P14 傾聴・質問する		
4	話す力			P15～P17 目的を意識する		
5	話す力			P18～P22 話を組み立てる		
6	話す力			P23～P29 言葉を選び抜く		
7	話す力			P30～P35 表現・伝達する		
8	実践基礎 1			P36～P39 来客応対		
9	実践基礎 2			P40～P43 電話応対		
10	実践基礎 3			P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶		
11	実践基礎 4			P49～P54 情報共有の重要性		
12	実践基礎 5			P55～P59 チーム・コミュニケーション		
13	実践応用 1			P60～P65 接客・営業		
14	実践応用 2			P66～P71 クレーム対応		
15	実践応用 3			P72～P77 会議・取材・ヒヤリング		
16	実践応用 4			P78～P83 面接		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話も交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。		
実務経験教員の経歴						

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	映画プロデュース科	科目名	作品制作		
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 毎週短編映像制作を実施 2. 映像を通してのアウトプットを学ぶ 3. 制作プロセスの経験と発表				
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会作品のクオリティアップ				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
日数 (7コマ)	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	制作実践Ⅰ (短編)		企画・撮影・編集・MA・講評		
3・4	制作実践Ⅱ (短編)		企画・撮影・編集・MA・講評		
5・6	制作実践Ⅲ (短編)		企画・撮影・編集・MA・講評		
7・8	制作実践Ⅳ (短編)		企画・撮影・編集・MA・講評		
9・10	制作実践Ⅰ (課題)		企画・撮影・編集・MA・講評		
11・12	制作実践Ⅱ (課題)		企画・撮影・編集・MA・講評		
13・14	制作実践Ⅲ (課題)		企画・撮影・編集・MA・講評		
15・16	制作実践Ⅰ (短編・中編)		企画・撮影・編集・MA・講評		
17～47	制作実践Ⅱ (短編・中編)		企画・撮影・編集・MA・講評		
48	発表		講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を 最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	作品制作		
担当教員		広川　一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎週短編映像制作を実施 2. 映像を通してのアウトプットを学ぶ 3. 制作プロセスの経験と発表				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会作品のクオリティアップ				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
日数（7コマ）	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	制作実践Ⅰ（短編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
3・4	制作実践Ⅱ（短編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
5・6	制作実践Ⅲ（短編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
7・8	制作実践Ⅳ（短編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
9・10	制作実践Ⅰ（課題）			企画・撮影・編集・MA・講評		
11・12	制作実践Ⅱ（課題）			企画・撮影・編集・MA・講評		
13・14	制作実践Ⅲ（課題）			企画・撮影・編集・MA・講評		
15・16	制作実践Ⅰ（短編・中編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
17～47	制作実践Ⅱ（短編・中編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
48	発表			講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	作品制作		
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎週短編映像制作を実施 2. 映像を通してのアウトプットを学ぶ 3. 制作プロセスの経験と発表				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会作品のクオリティアップ				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
日数（7コマ）	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	制作実践Ⅰ（短編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
3・4	制作実践Ⅱ（短編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
5・6	制作実践Ⅲ（短編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
7・8	制作実践Ⅳ（短編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
9・10	制作実践Ⅰ（課題）			企画・撮影・編集・MA・講評		
11・12	制作実践Ⅱ（課題）			企画・撮影・編集・MA・講評		
13・14	制作実践Ⅲ（課題）			企画・撮影・編集・MA・講評		
15・16	制作実践Ⅰ（短編・中編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
17～47	制作実践Ⅱ（短編・中編）			企画・撮影・編集・MA・講評		
48	発表			講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	作品制作		
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	4	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎週短編映像制作を実施 2. 映像を通してのアウトプットを学ぶ 3. 制作プロセスの経験と発表				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会作品のクオリティアップ				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
日数 (7コマ)	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	制作実践Ⅰ (短編)			企画・撮影・編集・MA・講評		
3・4	制作実践Ⅱ (短編)			企画・撮影・編集・MA・講評		
5・6	制作実践Ⅲ (短編)			企画・撮影・編集・MA・講評		
7・8	制作実践Ⅳ (短編)			企画・撮影・編集・MA・講評		
9・10	制作実践Ⅰ (課題)			企画・撮影・編集・MA・講評		
11・12	制作実践Ⅱ (課題)			企画・撮影・編集・MA・講評		
13・14	制作実践Ⅲ (課題)			企画・撮影・編集・MA・講評		
15・16	制作実践Ⅰ (短編・中編)			企画・撮影・編集・MA・講評		
17～47	制作実践Ⅱ (短編・中編)			企画・撮影・編集・MA・講評		
48	発表			講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	映画プロデュース科	科目名	演習		
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象コース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 自ら映像を監督し、演出出来る力を身に付ける 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演出法Ⅰ		映画・映像作品鑑賞をし、カット割り、演出法を学ぶ		
2	演出法Ⅱ		映画・映像作品鑑賞をし、カット割り、演出法を学ぶ		
3～5	企画・演出Ⅰ		班編成→企画制作		
6～10	企画・演出Ⅱ		企画制作		
11	企画・演出Ⅲ		絵コンテ制作		
12	企画・演出Ⅵ		絵コンテ制作		
13	演出演習Ⅰ		作品決定、企画内容修正		
14	演出演習Ⅱ		作品決定、企画内容修正		
15～20	演出演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
21～22	演出演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
23～24	演出演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
25～47	演出演習Ⅵ		各学生が1本監督し、映像制作を行う		
48	発表		講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	映画プロデュース科	科目名	演習		
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象コース		対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1．自ら映像を監督し、演出出来る力を身に付ける 2．学生自身が自由な発想で演出が出来る 3．演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学习方法・準備学習・備考		
1	演出法Ⅰ		映画・映像作品鑑賞をし、カット割り、演出法を学ぶ		
2	演出法Ⅱ		映画・映像作品鑑賞をし、カット割り、演出法を学ぶ		
3～5	企画・演出Ⅰ		班編成→企画制作		
6～10	企画・演出Ⅱ		企画制作		
11	企画・演出Ⅲ		絵コンテ制作		
12	企画・演出Ⅵ		絵コンテ制作		
13	演出演習Ⅰ		作品決定、企画内容修正		
14	演出演習Ⅱ		作品決定、企画内容修正		
15～20	演出演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
21～22	演出演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
23～24	演出演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
25～47	演出演習Ⅵ		各学生が1本監督し、映像制作を行う		
48	発表		講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スティール提出35%、映像・舞台制作35％、出席率30%			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイディアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	映画プロデュース科	科目名	演習		
担当教員	広川一義		実務授業の有無	○	
対象コース		対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1．自ら映像を監督し、演出出来る力を身に付ける 2．学生自身が自由な発想で演出が出来る 3．演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)	映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学习方法・準備学習・備考		
1	演出法Ⅰ		映画・映像作品鑑賞をし、カット割り、演出法を学ぶ		
2	演出法Ⅱ		映画・映像作品鑑賞をし、カット割り、演出法を学ぶ		
3～5	企画・演出Ⅰ		班編成→企画制作		
6～10	企画・演出Ⅱ		企画制作		
11	企画・演出Ⅲ		絵コンテ制作		
12	企画・演出Ⅵ		絵コンテ制作		
13	演出演習Ⅰ		作品決定、企画内容修正		
14	演出演習Ⅱ		作品決定、企画内容修正		
15～20	演出演習Ⅲ		制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
21～22	演出演習Ⅳ		美術・衣装・小道具打ち合わせ		
23～24	演出演習Ⅴ		撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
25～47	演出演習Ⅵ		各学生が1本監督し、映像制作を行う		
48	発表		講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	i-MEDIAゼミ		
担当教員		神田 幸司		実務授業の有無	×	
対象コース			対象学年	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4	開講時期	前期 ・ 後期
必修 ・ 選択		必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のように留まらず、実習 ・ 演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。				
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。				
テキスト ・ 教材 ・ 参 考図書 ・ その他資料		講師の事前資料あり				
回数	授業項目、内容			学習方法 ・ 準備学習 ・ 備考		
1 ・ 2	スペシャルゲスト講師①			予定講師		
3 ・ 4	スペシャルゲスト講師②			声優 ・ アーティスト ・ 映画監督 ・ プロデューサー ・ お笑い芸人 ・ イベントプロデューサー ・ 歌手 ・ 教育関係者 ・ ユーチューバーなど		
5 ・ 6	スペシャルゲスト講師③					
7 ・ 8	スペシャルゲスト講師④					
9 ・ 10	スペシャルゲスト講師⑤					
11 ・ 12	スペシャルゲスト講師⑥					
13 ・ 14	スペシャルゲスト講師⑦					
15 ・ 16	スペシャルゲスト講師⑧					
17 ・ 18	スペシャルゲスト講師⑨					
19 ・ 20	スペシャルゲスト講師⑩					
21 ・ 22	スペシャルゲスト講師⑪					
23 ・ 24	スペシャルゲスト講師⑫					
25 ・ 26	スペシャルゲスト講師⑬					
27 ・ 28	スペシャルゲスト講師⑭					
29 ・ 30	スペシャルゲスト講師⑮					
31 ・ 32	スペシャルゲスト講師⑯					
評価方法 ・ 成績評価基準				履修上の注意		
授業態度と出席簿で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上) ・ B(70点以上) ・ C(60点以上) ・ D(59点以下) ・ D評価を不可とする。				事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴						

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	映画プロデュース科	科目名	社会人常識マナー検定		
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象コース		対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4. ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集 3 級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織 1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織 2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識 1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識 2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。来客応対。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道府県名・県庁所在地・各県の特色など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	映画概論		
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ				
学習目標 (到達目標)		それぞれの時代の映画監督が、多種多様な創造性を発揮して新しい表現方法を発見していったのかを知り、自分の作品制作に活かせるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	映画・映像批評（前期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（サイレント）		
2	映画・映像批評（前期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ドキュメンタリー）		
3	映画・映像批評（前期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（時代劇）		
4	映画・映像批評（前期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）		
5	映画・映像批評（前期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）		
6	映画・映像批評（前期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ジャパニーズ・ホラー）		
7	映画・映像批評（前期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（B級ホラー）		
8	映画・映像批評（前期）Ⅷ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）		
9	映画・映像批評（前期）Ⅸ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）		
10	映画・映像批評（後期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）		
11	映画・映像批評（後期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コメディ映画）		
12	映画・映像批評（後期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）		
13	映画・映像批評（後期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）		
14	映画・映像批評（後期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）		
15	映画・映像批評（後期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）		
16	映画・映像批評（後期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
レポート70%、出席率30%				16回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。 3年生と4年生では視聴映画が異なります。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	映画概論		
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	4	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ				
学習目標 (到達目標)		それぞれの時代の映画監督が、多種多様な創造性を発揮して新しい表現方法を発見していったのかを知り、自分の作品制作に活かせるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	映画・映像批評（前期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（サイレント）		
2	映画・映像批評（前期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ドキュメンタリー）		
3	映画・映像批評（前期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（時代劇）		
4	映画・映像批評（前期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）		
5	映画・映像批評（前期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）		
6	映画・映像批評（前期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ジャパニーズ・ホラー）		
7	映画・映像批評（前期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（B級ホラー）		
8	映画・映像批評（前期）Ⅷ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）		
9	映画・映像批評（前期）Ⅸ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）		
10	映画・映像批評（後期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）		
11	映画・映像批評（後期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コメディ映画）		
12	映画・映像批評（後期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）		
13	映画・映像批評（後期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）		
14	映画・映像批評（後期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）		
15	映画・映像批評（後期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）		
16	映画・映像批評（後期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
レポート70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				16回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。 3年生と4年生では視聴映画が異なります。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

対象学科		映画プロデュース科	科目名	実践行動学		
担当教員		若狭 利之		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数		単位時間数	15時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part 1 ～Part 3 を毎回グループに分かれて実施				
学習目標 （到達目標）		将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	Part 1 マジックドア 1			夢と目標 P 1 ～P 7		
2	Part 1 マジックドア 2			誤った思い込みと言い訳 P 8 ～P 1 3		
3	Part 1 マジックドア 3			行動のよりどころと心構え P 1 4 ～P 2 2		
4	Part 1 マジックドア 4			まず第 1 歩を P 2 3 ～P 3 2		
5	Part 1 マジックドア 5			目標設定しよう P 3 3 ～P38		
6	Step Up Sheet			目標設定達成の振り返り P 3 9 ～P 4 2		
7	Part 2 マジックドア 1			プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P 1 ～P4		
8	Part 2 マジックドア 2			考え方を変えれば行動が変わる P 5 ～P 1 1		
9	Part 2 マジックドア 3			あなたの問題は、あなたが解決できる P 1 2 ～P 1 9		
10	Part 2 マジックドア 4			あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P 2 0 ～P 2 7		
11	Part 2 マジックドア 5			目標が才能・可能性を開花させる P 2 8 ～P 3 2		
12	Step Up Sheet			目標設定達成の振り返り P 3 4 ～P 3 6		
13	Part 3 マジックドア 1			入学から今日までの成長を実感しよう P 1 ～P 4		
14	Part 3 マジックドア 2			働く自分をイメージしてみよう P 5 ～P 1 0		
15	Part 3 マジックドア 3			自分が最大限に生きる働き方とは P 1 1 ～P 1 5		
16	Part 3 マジックドア 4			将来を描いてみよう P 1 6 ～P 2 0		
17	Part 3 マジックドア 5			夢実現への第一歩を踏み出そう P 2 1 ～P24		
18	Step Up Sheet			夢実現整理・行動計画の振り返り P 2 5 ～P 2 8		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかありません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。 Step Up Sheetは時間に含まない（あくまでも補講）		
実務経験教員の経歴		実践行動学ファシリテーター資格者				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	専攻実習		
担当教員		広川一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)		映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
6～15	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
16～25	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出		
26～35	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
36～45	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始		
46～55	企画・演出Ⅵ			撮影完了		
56～65	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）		
66～75	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
76～85	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
86～95	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ		
96～105	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
106～115	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
116～125	前期集大成の映像作品制作			完成したものは随時上映会を実施		
126～135						
136～145						
146～152						
153～159						
160～166						
167～174						
175～182						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	専攻実習		
担当教員		広川一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)		映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
6～15	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
16～25	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出		
26～35	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
36～45	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始		
46～55	企画・演出Ⅵ			撮影完了		
56～65	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）		
66～75	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
76～85	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
86～95	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ		
96～105	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
106～115	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
116～125	前期集大成の映像作品制作			完成したものは随時上映会を実施		
126～135						
136～145						
146～152						
153～159						
160～166						
167～174						
175～182						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	専攻実習		
担当教員		広川一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)		映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
6～15	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
16～25	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出		
26～35	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
36～45	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始		
46～55	企画・演出Ⅵ			撮影完了		
56～65	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）		
66～75	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
76～85	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
86～95	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ		
96～105	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
106～115	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
116～125	前期集大成の映像作品制作			完成したものは随時上映会を実施		
126～135						
136～145						
146～152						
153～159						
160～166						
167～174						
175～182						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	専攻実習		
担当教員		広川一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	4	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 学生自身が自由な発想で演出が出来る 3. 演出したものを形にしてみる				
学習目標 (到達目標)		映像演出の概念、シナリオからテーマ・登場人物の関係を理解し、表現方法のアレンジ、強調・演出の付け方・説明的な表現の排除等を実践出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画・演出Ⅰ			班編成→企画提出→プレゼンテーション後、一次選考		
6～15	企画・演出Ⅱ			撮影（スチール）作品決定、企画内容修正		
16～25	企画・演出Ⅲ			撮影スケジュール案を提出		
26～35	企画・演出Ⅳ			予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定		
36～45	企画・演出Ⅴ			撮影準備開始		
46～55	企画・演出Ⅵ			撮影完了		
56～65	映像演出（基礎）演習Ⅰ			企画内容選定（舞台制作）		
66～75	映像演出（基礎）演習Ⅱ			企画内容修正・制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
76～85	映像演出（基礎）演習Ⅲ			制作準備・予算・キャスティング・ロケハン等準備		
86～95	映像演出（基礎）演習Ⅳ			美術・衣装・小道具打ち合わせ		
96～105	映像演出（基礎）演習Ⅴ			撮影スケジュールの最終決定、リハーサル		
106～115	映像演出（基礎）演習Ⅵ			企画を元にした映像制作もしくは舞台制作準備		
116～125	前期集大成の映像作品制作			完成したものは随時上映会を実施		
126～135						
136～145						
146～152						
153～159						
160～166						
167～174						
175～182						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
スチール提出35%、映像・舞台制作35%、出席率30%				グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	卒業進級制作		
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	260時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
日数 (7コマ)	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
3・4	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
5・6	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
7・8	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正		
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正		
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正		
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正		
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正		
19・20	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け		
21・22	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り		
23・24	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り		
25・26	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り		
27・28	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA		
29・30	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA		
31・32	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA		
33・34	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA		
35・36	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正		
37・38	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ		
39・40	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	卒業進級制作		
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	260時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
日数 (7コマ)	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
3・4	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
5・6	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
7・8	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正		
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正		
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正		
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正		
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正		
19・20	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け		
21・22	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り		
23・24	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り		
25・26	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り		
27・28	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA		
29・30	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA		
31・32	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA		
33・34	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA		
35・36	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正		
37・38	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ		
39・40	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	卒業進級制作		
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	260時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
日数 (7コマ)	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
3・4	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
5・6	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
7・8	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正		
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正		
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正		
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正		
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正		
19・20	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け		
21・22	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り		
23・24	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り		
25・26	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り		
27・28	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA		
29・30	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA		
31・32	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA		
33・34	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA		
35・36	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正		
37・38	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ		
39・40	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		映画プロデュース科	科目名	卒業進級制作		
担当教員		広川 一義		実務授業の有無	○	
対象コース			対象学年	4	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	260時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。				
日数 (7コマ)	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
3・4	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
5・6	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
7・8	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）		
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正		
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正		
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正		
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正		
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正		
19・20	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け		
21・22	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り		
23・24	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り		
25・26	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り		
27・28	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA		
29・30	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA		
31・32	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA		
33・34	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA		
35・36	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正		
37・38	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ		
39・40	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。		
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

科目名	発声				
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○
対象学科・コース		全学科コース	対象学年	全学年	開講時期 前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. マイク通りの良い発声・滑舌を身につける。			
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成テキスト			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習	
6	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
7	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
8	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
9	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
10	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。	
11	テスト			滑舌課題確認テスト	
12	外郎売			暗唱	
13	外郎売			暗唱	
14	外郎売			暗唱	
15	外郎売			暗唱	
16	テスト			外郎売テスト	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				しっかりと声を前に出す意識を持たせる。	
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む			

科目名	演技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)	自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	身体トレーニング 1		イントロダクション・トレーニングの重要性		
2	身体トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動		
3	身体トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法		
4	身体トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング		
5	身体トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
6	身体トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
7	身体トレーニング 7		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
8	身体トレーニング 8		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
9	身体トレーニング 9		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・リセット		
10	演技トレーニング 1		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
11	演技トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
12	演技トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
13	演技トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
14	演技トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
15	演技トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
16	テスト		テスト（身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能力）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20%			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成するつもりで臨んでほしい。日常のコンディショニングと常時最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意思を自覚すること。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動10年以上。				

科目名	歌唱				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	声楽のためのストレッチと呼吸 テキスト解説		歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声楽のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音		歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト		コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ		1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	演奏				
担当教員	富田 一輝		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 各希望楽器を用いたアンサンブル授業 2. 各パートごとの練習、完成後にバンド演奏 3. バンドステージとして発表				
学習目標 (到達目標)	初心者でも楽器が演奏できるようにある。経験者でもより高度なテクニックを身に付ける。 最終的にはバンド形態で1曲以上、演奏が出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	楽譜などプリント対応				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	楽器の特性などを説明		ギター・ベース・ドラムス・キーボード		
2	パート分け		各楽器および経験の有無に分かれて練習を開始		
3	まず音を出してみる		経験者は初心者をサポートしながら楽器を演奏してみる		
4	課題曲① 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
5					
6					
7					
8	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
9					
10	課題曲① 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
11	課題曲② 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
12					
13					
14	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
15					
16	課題曲② 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題①発表30%、課題②発表30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			楽器は各自、ご用意ください。		
実務経験教員の経歴	作曲家：2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数				

科目名	声優				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 日々行える声優トレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やブレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	映像				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 撮影・編集の基本的知識 3. スマホで撮影・編集・作品制作				
学習目標 (到達目標)	スマホで簡単に動画制作が出来ること				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	カメラ・編集機材の説明				
2	カメラ・編集機材の説明		使用方法		
3	撮影		撮影の基本的知識		
4	撮影		カメラワークについて		
5	撮影		サイズと照明効果		
6	撮影		10カット撮影してみよう		
7	編集		ソフトの選び方		
8	編集		カット編集の基本的知識（静止画）		
9	編集		カット編集の基本的知識（動画）		
10	編集		撮影した動画を自分で繋いでみる		
11	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
12	MA		映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
13	作品制作				
14	作品制作				
15	1分間動画 作品発表 評論		スクリーンにて作品投影		
16	1分間動画 作品発表 評論		スクリーンにて作品投影		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			最終的には自身のスマホを使って自由に動画制作が出来ること		
実務経験教員の経歴	新潟の映像制作プロダクションにて10年勤務				

科目名		照明			
担当教員		新潟照明技研株式会社 五味澤 和宏		実務授業の有無	○
対象学科・コース		全学科コース	対象学年	全学年	開講時期 前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数 16
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。			
学習目標 (到達目標)		安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	照明基礎1 機材について			舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方	
2	照明基礎2 照明卓操作と色の変化			機材の名称、使い方と安全な作業について	
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類			各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。	
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識			図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。	
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り			吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。	
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編			オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。	
7	照明基礎7 電気基礎 応用編			灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス（当たり合わせ）	
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方			図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる	
9	照明基礎9 前期復習（テスト）			前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー	
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい			休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し	
11	照明基礎11 演目とイメージ			演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正	
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン			音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作	
13	照明基礎13 芝居などの効果演出			演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作	
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材			演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法	
15	照明基礎15 プランニングまとめ			照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング	
16	照明基礎16 基礎のまとめ			照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。	
実務経験教員の経歴		新潟照明技研株式会社に所属する現役の照明家			

科目名		音響									
担当教員		株式会社サウンドエイト長谷川 辰也		実務授業の有無		○					
対象学科・コース		全学科コース		対象学年		全学年		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する									
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。									
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1		音響基礎実習Ⅰ					映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ				
2		音響基礎実習Ⅱ					音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ				
3		音響基礎実習Ⅲ					録音機材の準備方法、撤収方法				
4		音響基礎実習Ⅳ					ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ				
5		音響基礎実習Ⅴ					スタジオ録音実習				
6		音響基礎実習Ⅵ					アフレコ録音実習				
7		音響基礎実習Ⅶ					アフレコ録音実習				
8		音響基礎実習Ⅷ					効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）				
9		音響基礎実習Ⅸ					効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）				
10		音響基礎実習Ⅹ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
11		音響基礎実習Ⅺ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
12		音響基礎実習Ⅻ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
13		音響仕上げ実習Ⅰ					ミックスダウンを行ってみる。				
14		音響仕上げ実習Ⅱ					ミックスダウンを行ってみる。				
15		音響効果研究Ⅰ					アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する				
16		音響効果研究Ⅱ					アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する				
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴		新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。									

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		制作				
担当教員		朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科・コース		全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. イベントが作られる仕組みを学ぶ 2. イベント運営を学ぶ 3. 自主企画イベントを行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	イベント企画導入Ⅰ			イベントを組む上での必要な考え方		
2	イベント企画導入Ⅱ			イベントに必要な人材や役割を理解する		
3	イベント企画Ⅰ			公演時に必要な役割と準備		
4	イベント企画Ⅱ			企画書作成に関する基礎知識		
5	イベント企画Ⅲ			演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	イベント企画Ⅳ			いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	イベント企画Ⅴ			様々な意見やジャンルからアイデアを集める		
8	イベント企画Ⅵ			アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	イベント企画Ⅶ			仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう（提出）		
10	イベント企画Ⅷ			イベント論 1 公演目的と意義		
11	イベント企画Ⅸ			イベント論 2 地域交流（イベント）		
12	イベント企画Ⅹ			イベント論 3 多種多様なイベント形態		
13	イベント企画Ⅺ			出演者やスタッフの動きを考える		
14	イベント企画Ⅻ			出演者のタイムスケジュールについて		
15	イベント企画ⅩⅢ			スタッフ進行表について		
16	総括			実演目的の企画を立ててみる。（演目時間自由）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%				16回すべての授業に出席し、イベントの企画を行う事		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて28年の指導、MBAホルダー				

科目名	演出				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科・コース	全学科コース	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	10時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像表現に必要な演出手法を習得する。 2. 学生制作作品をチェックしながら具体的改善的を指導する。				
学習目標 (到達目標)	自ら演出を考え、役者に芝居に応じた演出を付けられる				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演出基礎Ⅰ		筋書と台詞について		
2	演出基礎Ⅱ		立ち位置、見栄え、動き		
3	演出基礎Ⅲ		効果的な音響・照明効果		
4	演出論Ⅰ		著名な演出家		
5	演出論Ⅱ		歴史的・社会的・世界観表現		
6	演出論Ⅲ		創作演出、メソッド効果など		
7	映像・演出とは何か		画面の映り方による画面効果の違い		
8	映像・演出とは何か		視線の的確な誘導を考える！		
9	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する①		
10	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する②		
11	アクションについて		なめらかに見せる演出方法		
12	アクションについて		フレームインアウトなど		
13	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法①		
14	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法②		
15	学生作品（5分）制作		各自、演出方法を参考に動画を制作してみる。		
16	学生作品（5分）の編集チェック		各自、作品を持参してプロジェクター投影しながら編集の 良し悪しの指導を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作品改善の評価70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			編集チェックの作品は自身の作品であること。 また、作品の提出は何本でも可能である。		
実務経験教員の経歴	演劇業界にて実績あり。当校専任講師				